

ラフ、信玄ソノ様子ヲ聞給ヒ、曲淵ヲ呼出しシノタマアハ甲斐國ハ皆信玄ガ譜代也、我ヲ差置、板垣
ガ爲ヲ存ズベキカ、此段ヲ合點仕、以來我ガ爲ヲ存候ヘ逆、十貫ノ加増給テ、少シモ怒不給、權現様
御聞被成、猫ハ座敷ヲヨゴセドモ、鼠ヲ取スベキ爲ニ飼之、カ様ニ社可有義ナレト、信玄ノ人ヲツ
カハル、様ヲ御ホメ被成候、

〔小須賀氏聞書〕其方○島津之儀、十五年此方御門ヘ不儀を被致、みつぎ物を不差上逆心之儀に候
間、秀吉出陣いたし、急度可申付候條、可討果義候ヘ共、其方よりことはりに候間免申候、此上は互
に可申通候、只今神妙成る體にて被罷出候間、諸腰を出し候とて、刀脇差之小尻を秀吉被持候て、
義久江柄の方をなし、みづから御出し被成候を、敵味方見候て、目をさまし、それより筑紫中之物
沙汰にて候、

〔古老夜話二〕太閤秀吉公、小田原御陣之時、御本陣に能を催さる、諸大名江見せしめけるに、上杉家
に寄宿せし花房助兵衛といふもの、御本陣之前を通掛り、打囃子物音を聞、大にあきれ、前には強
敵を置ながら、早々攻落す手立もなく、陣中にて能はやしの様子、たはけものを武將と仰くおか
しさよと、大音に罵りけるを、御本陣番衆聞とがめて、何ものなるぞと尋る、助兵衛少しも恐る、
いろなく、拙者は上杉家に寄宿する、花房助兵衛也といへば、番のもの共何ゆゑ御上之義を誹謗
する、酒狂か亂心か役人中迄届可申といへば、助兵衛猶もあざ笑ふて、陣中にて遊興之禁を第一
とす、本陣にて慰をし給ふ大將こそ、酒狂か亂心が成べし、御側の大小名是を諫るものなきは、皆
大腰ぬけと見えたり、鳴もの、音を聞も穢らはしと、御本陣之堀江睡を乞かけ、己が陣江歸りけ
り、番之もの聞兼奉行長束大藏小輔江訴出る、早御能も相濟、諸大名も退出せられ、大夫にも御暇
被下退きし所長束大藏罷出、先刻上杉景勝之寄宿花房助兵衛と申もの、御陣外にて、かやうく
の惡言、番之者訴候と言上しければ、太閤以外御怒にて、景勝呼と、乞きりの上意、人橋をかけて